

齊藤 康則

東北学院大学経済学部共生社会経済学科 准教授

地方都市における高齢世代の外出行動と持続可能な移動支援に関する実証的研究

本研究は、地方都市の周辺地域における高齢者のモビリティの支援のあり方について、具体的なケースとして、茨城県日立市におけるコミュニティ型、NPO 型の移動支援事業を取り上げた。郊外に位置する A 団地では、コミュニティ組織が交通事業者・利用する高齢者と協働し、持続可能な「高齢者サロンの足」を生み出してきた。そこでは、少数者のニーズに向き合おうとする、コミュニティ組織の「活動の論理」の浸透が認められる。一方、人口の過疎化が進んでいる過疎地域の C 地区では、福祉 NPO が、高齢者・障がい者の生活支援サービスの一環として、買い物・通院など生活上のミニマムに止まらない移動支援に取り組んできた。そこでは、市当局の運営協議会と掛け合うことで、要介護者、障がい者に限定された利用条件を緩和することに成功している。地方都市の周辺地域という、急激な少子高齢化に直面した条件不利地域では、「地域の足」の確保をきっかけとして、あらためてコミュニティ組織・福祉 NPO のガバナンスが問われていることがわかる。